

## 【経済】

## 「森友」で問題視…それでも昇格 なぜ国税庁長官に佐川氏？

2017年7月5日 朝刊

政府は4日、迫田英典国税庁長官(57)の後任に、財務省の佐川宣寿(のぶひさ)理財局長(59)を5日付で起用すると発表しました。佐川氏は、大阪市の学校法人「森友学園」に国有地を安く売った問題で国会答弁し、交渉経緯について十分な説明をしていないとの批判を受けました。国民からの徴税を担う国税庁のトップになぜなれるのでしょうか。(白山泉)

Q 国税庁は税金を徴収する組織ですね。国民への説明責任を避けてきた佐川氏の長官就任に違和感があります。

A 森友問題で、佐川氏は「(国有地を)適正に売却した」「(交渉記録は)残っていない」との答弁を繰り返し、真相究明を遠ざけました。佐川氏の就任については、民進党の蓮舫代表が「税に対する信頼は失墜する」と批判しています。国民の財産を安く売った経緯をきちんと説明しない人がトップに立てば、税を支払うことへの国民の抵抗感が強まる可能性もあります。

Q この人事は官邸を守った論功行賞ですか？

A 必ずしも大抜擢(ばってき)だとは言えません。国税庁長官は四人連続で理財局長からの昇格です。佐川氏の前任の長官は迫田氏で、森友学園に国有地売却を決めた時には昇格前で理財局長でした。そうした傾向からはおかしくないです。財務省の事務方の最高位は事務次官で、財務省の外局である国税庁の長官は「次官級」のポストに位置付けられています。

Q 官僚の人事は誰が決めているのですか。

A 幹部人事は萩生田光一官房副長官が局長を務める内閣人事局が一括で管理しています。佐川氏の就任について、菅義偉官房長官は四日の会見で「適材適所で配置が行われている」と説明しました。

Q 国民への説明責任を果たしていない人の昇進を「適材適所」と言われても、理解できません。

A 佐川氏を昇格させた背景について、元厚生労働省の官僚で神戸学院大の中野雅至教授(行政学)は「退官や格下げをすれば、国会答弁で支えてくれた財務省から恨みを買ひ、『しっぽ切り』と国民の批判も受けかねない」と官邸の事情を推測。「前例から長官にするのが、最も被害がないと考えたのだろう」と話しています。

東京新聞の購読はこちら【1週間ためしよみ】【電子版】

関連記事ピックアップ

Recommended by

加計学園獣医学部新設 京都案と比較の記録なし